

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	熊本学園	大学名	熊本学園大学
研究プロジェクト名	水俣病の経験を将来に活かした地域構想と国際的情報発信のための水俣学研究拠点の構築		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

水俣病の発生確認の 1956 年から半世紀以上が経過し、水俣病事件は社会的には終息しつつあるとみなされている。しかし今なお水俣病は学術的にも政策的にも被害者の補償と救済の面において未解明で、抜本的解決策が呈示されず、地域再構築に進むことができない。公害の原点、水俣病がなぜこのような状況にありその解決の方策がなにかを解明していくことは、開発途上国を中心に公害問題を抱える海外においても重要なことである。この研究プロジェクトは、被害の多様性研究、地域再構築調査、アーカイブ構築の 3 つの研究班によって構成される。原田正純氏が提唱した水俣学の理念と方法を発展させ、水俣病被害の実態、発生機序さらに被害民にとっての課題を明らかにし、その基礎の上に水俣病によって脆弱化した地域社会や大量の水銀が眠る水俣湾埋立地など環境の課題をふまえた地域再構築戦略を、社会と環境の総合的な課題と住民参加と地域の民主主義の形成に基づいて再検証することにより構想する。この研究の過程で水俣病文献収集とアーカイブ構築を進め、それが人材育成の場となり、さらに国内外における研究拠点としての役割を果たす。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

第 1 班では、水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究として、被害住民 8000 名のアンケート調査、被害民の聞き取り、また定期的な医療福祉相談事業を通じた実態把握などをすすみ、被害が医療面・身体被害面にとどまらず、差別や偏見に関わる社会的被害として、量的質的に明らかにすることができ、その一部を取り込んだ著作も発表した。

第 2 班では、環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究をテーマとする計画に基づき、地域の環境汚染状況調査、日常的な食事の水銀測定のための陰膳調査、住民参加型地域戦略プラットフォームの開催を実施し、有機水銀をはじめとした重金属による環境汚染を経験した地域における現在の住民の暮らしのあり方を把握し、コモンナレッジを踏まえたレジリエントな地域構想の構築に向けて橋頭堡を築いた。

第 3 班では、水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成を目指して、資料収集とデータベースおよび水俣学アーカイブ構築を進めた。本研究期間において 8 つの資料群を受け入れ、登録・目録化作業が済み次第、逐次水俣学研究センターのホームページ上で公開するとともに、画像データや音声データも積極的に公開した。一般利用に供することができ、順調に進捗している。

今後、これら 3 つの班の成果を総合することにより、不知火海沿岸の地域の構想を提起すること、ならびに多世代にわたる水俣病被害民の復権と幸福な生を実現する健康な社会環境の構想が可能となり、そのための研究拠点を順調に構築しており、外部評価でも高い評価を受けた。また成果の一部は新聞報道でも取り上げられ、社会的にも今後の展開が期待されている。

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

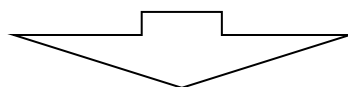
矢野 治世美	社会福祉学部・准教授	資料収集と分析	文献・資料データベース構築
学外研究者			
頼藤 貴志	岡山大学大学院・環境生命科学研究科・准教授	国際的研究をふまえた水俣病像の解明	水俣病の疫学的検討
除本 理史	大阪市立大学大学院・経営学研究科・教授	被害補償と救済に関わる経済学的解析	被害補償の経済学的検討
飯嶋 秀治	九州大学大学院・人間・環境学研究科・准教授	住民の語りと地域共生のあり方の呈示	地域住民のナラティブと地域の民俗検討
大久保 規子	大阪大学大学院・法学研究科・教授	国際法的視点から水俣病救済策の検討	環境被害の国際法的検討
尾崎 寛直	東京経済大学・経済学部・准教授	水俣病がもたらした地域経済の変容	地域経済と公害被害の検討
磯谷 明德	九州大学大学院・経済学研究科・教授	水俣の基幹産業と労働生活の分析	化学産業の労働経済学的検討
森下 直紀	和光大学・経済経営学部・講師	水俣とカナダにおける地域環境変容	自然環境の社会学的国際比較
富安 卓滋	鹿児島大学大学院・理工学研究科・教授	海水及び底質の水銀の変化の解析	地域の環境汚染の把握と対策
山本 尚友	水俣学研究センター客員研究員	資料・文献の蒐集とデータベースの構築	文献・資料データベース構築
高峰 武	熊本日日新聞社・論説顧問	収集資料の解析	ジャーナリズムと水俣病の連携
小林 直毅	法政大学・社会学部・教授	映像アーカイブネットワークの構築	アーカイブネットワーク構築
(共同研究機関等)			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
障害法からみた被害者の復権の法的研究	弁護士	東 俊裕	被害補償と救済の法学的検討

(変更の時期:平成27年4月1日)



新

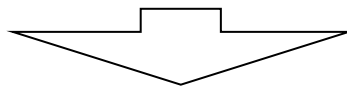
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
弁護士	熊本学園大学 社会福祉学部・教授	東 俊裕	被害補償と救済の法学的検討

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
資料・文献の蒐集とデータベースの構築	熊本学園大学 社会福祉学部・教授	山本尚友	文献・資料データベース構築

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



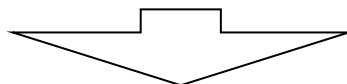
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
熊本学園大学社会福祉学部・教授	水俣学研究センター 客員研究員	山本尚友	文献・資料データベース構築

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
水俣病患者の医療とケアのニーズ分析	水俣学研究センター 研究助手	田尻雅美	水俣病患者の福祉的ケア

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



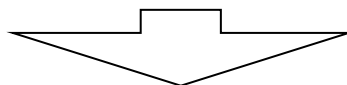
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
水俣学研究センター・研究助手	水俣学研究センター 特定事業研究員	田尻雅美	水俣病患者の福祉的ケア

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
水俣学アーカイブスの構築と国際発信	水俣学研究センター 研究助手	井上ゆかり	アーカイブ構築、連携

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



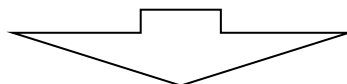
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
水俣学研究センター・研究助手	水俣学研究センター 特定事業研究員	井上ゆかり	アーカイブ構築、連携

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	福島大学うつくしま ふくしま未来支援センター・准教授	高木 亨	

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

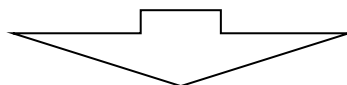
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
福島大学うつくしまふくしま未来支援センター・准教授	熊本学園大学 社会福祉学部・准教授	高木 亨	水俣病発生地域に関する地理的検討

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	(一社)和歌山人権研究所・主任研究員	矢野治世美	

(変更の時期:平成 29 年 5 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
(一社)和歌山人権研究所・主任研究員	熊本学園大学 社会福祉学部・准教授	矢野治世美	文献・資料データベース構築

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

水俣病の発生確認の1956年から半世紀以上が経過し、水俣病事件は社会的には終息しつつあるとみなされているが学術的・政策的にも被害者の補償と救済の面において未解明で、抜本的解決策が呈示されず、地域再構築に進むことができないなか、被害の多様性研究、地域再構築調査、アーカイブ構築の基盤となる研究拠点となるべく本プロジェクトを展開する。原田正純氏が提唱した水俣学の理念と方法を発展させ、水俣病被害の実態、発生機序さらに被害民にとっての課題を明らかにし、その基礎の上に水俣病によって脆弱化した地域社会や大量の水銀が眠る水俣湾埋立地など環境の課題をふまえた地域再構築戦略を、社会と環境の総合的な課題と住民参加と地域の民主主義の形成に基づいて再検証することにより構想する。この研究の過程で水俣病文献収集とアーカイブ構築を進め、それが人材育成の場となり、さらに国内外における研究拠点としての役割を果たす。第1班の水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究、第2班の環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究、第3班の水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成の成果を総合することにより、不知火海沿岸の環境負債を活かした住民による地域再構想を提起すること、ならびに多世代にわたる水俣病被害民の復権と幸福な生を実現する健康な社会環境を明示する。

(2) 研究組織

(1) 本研究プロジェクトは、「水俣学研究センター」を母体とし、そのもとで組織されており、研究代表者は、各班の統括、プロジェクトの進捗管理など研究マネジメントに責任を負う。

本研究プロジェクトでは、以下の3つの研究班を組織するが、これらは入れ子状に密接に協働しながら研究を進める。第1班(責任者:花田昌宣、学内研究員3名、学外研究員7名)は、「水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究」として、水俣病被害とは何かの問い直しが行われ、その研究調査プロセスは第2班(責任者:宮北隆志、学内研究員4名、学外研究員2名)「環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究」の研究へと反映されるとともに、第2班の成果は、第1班の水俣病問題の解決への指針を提供する。第3班(責任者:井上ゆかり、学内研究員1名、学外研究員3名)「水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成」は、水俣学研究の資料的基盤を形成し、第1、第2班のベースを提供すると同時に、この2つの班の地域密着型研究調査過程で収集される資料を加増することで充実が図られる。

(2) 大学院生・PD及びRAの人数・活用状況

大学院では、水俣学フィールドワークを正規科目として実施しており、本研究プロジェクトと連携した教育を実施している。RA等に関しては、2015年度から1名、2016年度1名、2017年度1名の採用をしている。

(3) 研究チーム間の連携状況

各班の研究責任者を中心として毎週1回月曜日に運営委員会を持ち研究の進捗状況や問題点を把握し、効果的な運営と緊密な連携をはかっている。プロジェクトの構成員は、研究会などで恒常的に連携するだけでなくメーリングリストによって絶えず情報交換を行っている。

(4) 研究支援体制

水俣学研究センターに2015、2016年度は研究助手2名、2017年度からは研究員2名を配置するとともに、事務職員3名(本学2名、現地研究センター1名)が配置されている。本学学術文化課が担当事務部局として、財政・経理・施設整備・研究評価、学内諸部局組織との連携を図り支援している。

(5) 学外研究機関などとの連携状況

本研究プロジェクトはオリジナルな方法と課題を有しているため、固定的な共同研究機関をっていないが、日本環境会議、国立水俣病総合研究センター、NPO法人環境ネットワークくまもと、水俣はたるの家、水俣病センター相思社、水俣病互助会、水俣病不知火患者会、水俣市や天草市御所浦支所とは、日常的な協力関係を構築している。海外との学術研究交流協定締結機関は、国立成功大学社会科学学院(台湾)、EARTH(タイ)、中国清華大学、NGO環境運動連合(韓国)などと連携している。

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

(3) 研究施設・設備等

本学の「水俣学研究センター」、並びに、水俣市に開設した「水俣学現地研究センター」を本プロジェクト推進のために活用している。2017年1月、これまで借用利用していた本学14号館3階日本・中国金融研究プロジェクト室及び第三会議室を研究スペースとしての利用が認められ、書架などを配置し、資料の受け入れ、データベース化などの研究活動の充実が図れるようになった。

水俣学研究センター		面積(m ²)	用途
14号館 3階	事務室	33.2	事務作業など
	文献資料室	33.2	関係図書や資料を配架及び閲覧
	データベース室	33.2	資料整理・データベース化
7号館 3階	書庫	40.0	資料所蔵
	書庫	40.0	資料所蔵

研究員1名、事務職員2名、RA1名、アルバイト10名を配置。7号館に資料整理作業室ならびに書庫を設置し、水俣学関連書籍、研究資料、DVD等は、研究員、客員研究員や大学院生、調査に訪れる研究者らが活用している。

水俣学現地研究センター		310.51m ²
1階	事務スペース	会議室
	研究打合せスペース	研究室
	休養室	貴重書庫
	資料閲覧スペース	相談室
	資料作業スペース	待合スペース
	談話コーナー	ホール
	書庫	

平成17年8月に水俣市に開設。現地における調査・研究活動の拠点として、研究員1名、事務職員1名、アルバイト5名を配置。健康・医療・福祉相談、研究会などは2階に設置された相談室・会議室で行う。

(4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

< 現在までの進捗状況及び達成度 >

第1班 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究

・2016年朝日新聞社と共同で水俣病公式確認60年アンケートを実施した。水俣病に関してはこれまでも住民を対象としたアンケート調査はなされているが、被害者を対象とした調査は今回の調査が初めてであり本研究の意義は大きかった。*9,13,103

・カナダ水俣病の被害者を招聘し、熊本市と水俣市、東京都でシンポジウムを2017年に開催した。このシンポジウムは、第1班の水俣病を社会的なものとして位置づけ医学的な学問から解放し、社会環境のなかに再定置し、あらためて終わることのできないカナダと熊本水俣病の被害実態を明らかにすることを目的として開催した。この取り組みにより、海外とのネットワーク形成、海外での公害発生地域への貢献がより深まった。*6,10,11,12

・市民研究グループみなまた地域研究会と共同で沿岸漁民の生活史を明らかにし漁業と暮らしの歴史と現在を明らかにする目的で聞き取りを行い、その記録を熊本学園大学水俣学研究センター資料叢書IVとして刊行した。*52

第2班 環境負債を克服し地域再構築にむけた評価と民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究

地域のステークホルダーと研究者で構成される「水俣・芦北地域戦略プラットフォーム」を主宰し、多様な考えの交差点を析出し、地域戦略構想を築きつつある。その一方で、市民研究団体と共同で実施した環境中の水銀や重金属汚染調査では、いまなお、濃厚汚染が確認できる地点があり、環境負債の現状を確認できた。*100,101,102

第3班 水俣学アーカイブを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成

・本研究期間中、最首悟氏、宮澤信雄氏らの研究資料や水俣病患者、国会議員など8件の資料群の寄贈を受け、それらの文献目録化を終え、逐次水俣学研究センターのホームページ上で「水俣学研究センター所蔵資料データベース」として公開した。さらに水俣学の取り組みの一端が研究者以外へも理解が容易になるよう映像と資料を「水俣学アーカイブ」として公開し、英語版も作成した。*110,111,112

・劣化の激しい資料を対象として補修並びに脱酸性化などの段階的な保存プロジェクトを開始した。以上のように、当初計画どおりの成果が得られ、全体として順調に進捗している。また、成果の一部は、学術誌や新聞報道で取り上げられ、今後の展開が期待されている。

< 特に優れた研究成果 >

第1班 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究

健康・医療・福祉相談事業を通じた調査の遂行および胎児性水俣病に関する臨床的調査及び文献

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

資料等の調査研究の成果をタイ王国チュラロンコン大学で開催した国際シンポジウム Minamata@60: Learning from Industrial Disaster towards Sustainable Society and Environment”において発表した*82,90。また、朝日新聞社と共同で実施した水俣病被害者を対象とした意識調査では調査対象者 8000 人で回収率は 30%を超え、水俣病研究史上初めての大規模調査となった。統計的分析は 2018 年 1 月に中間報告として公表することができた。*103 現在、自由回答欄の質的な分析を進めているが、水俣病被害の社会的側面を質的にも明らかにできるものである。

第 2 班 環境負荷を克服し地域再構築にむけた評価と民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究

地元市民グループと共同で不知火海の底質・魚介類中の水銀調査、陰膳調査を行った。本調査で、水銀による高濃度の土壌汚染が明らかになり追加調査を実施し、地元での公開の研究会で警告を発するとともに熊本県へ調査の必要性を提言した。陰膳調査では、週間耐容摂取量と同程度の水銀を摂取している市民がいることを明らかにしたが、サンプル数が限られているため対象者を増やすとともに継続したモニタリングを行っている。

第 3 班 水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成

データベースで公開した文献目録には、倫理上の配慮をしながら積極的に資料画像を公開するとともに目録上で音声データが視聴できるシステムを構築し、歴史的な音声記録を公開している。また、アーカイブ構築を進めて、写真のみならず動画映像も公開し、研究成果公開による社会への貢献を果たすことができている。

<問題点とその克服方法>

平成 28 年 4 月に熊本地震が起き、熊本学園大学水俣学研究センターも被災し、資料が散乱するなどしたため 3 ヶ月ほど研究活動が停止し、その後の復旧に時間を要したため、全体として研究計画実施にも影響が出た。しかし、アルバイト職員を増員し、現時点では当初の計画は大きな変更をすることなく、進めることができている。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>

本研究は、実用化や特許にかかる研究ではないが、現地に根ざした調査研究を、地元の水俣病被害者や関係機関との信頼関係を構築し、国内外の研究者や NGO と連携して進めていること、ならびに成果を積極的に発信していることの結果として、様々な大学や研究機関からの水俣病に関する調査や研修の依頼が増えてきた。従来の研究の連携ネットワークをさらに拡大し、社会への還元も可能になっている。

<今後の研究方針>

3 年間の研究では、水俣病事件における被害民の被害の実態、地域課題の検証、資料収集と公開など基礎的な研究に軸を置いてきたが、今後は最終成果の素案作成に着手し、国際フォーラムで成果報告し、地域の社会的アクターを巻き込んだ新たな地域再構築に向けた政策提言を推進し目標達成を目指す。成果は学術論文や著作だけではなく、市民向けのブックレットも随時刊行予定である。

第 1 班 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究

当初の調査に基づく調査研究を継続するが、とくに被害者アンケート調査の質的分析と補足調査や高齢化する被害者の社会福祉的施策に関する調査を行い、最終成果の素案作成に着手し、成果の刊行ならびに環境被害国際フォーラムで報告する。

第 2 班 環境負荷を克服し地域再構築にむけた評価と民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究

住民参加型のプラットフォームを継続的に開催し、第 1 班の成果ならびに環境汚染調査の成果を踏まえた地域戦略構想の立案に向けた取り組みを強化する。

第 3 班 水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成

本年度に開催予定の国際フォーラムに参加する海外からの被害民への調査と海外の公害事件の写真や映像による記録の収集と HP 上のアーカイブへの搭載。データベースおよびアーカイブの利活用に向けた各コンテンツの充実を図る。

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

＜今後期待される研究成果＞

水俣学という新たな方法論をもって水俣病事件研究の総合的な研究拠点の形成が図られ国内外に学術的貢献を果たす。

(1) [研究基盤の形成] 最終年度に向けて総合的な著作の刊行が予定されている。研究成果と日常的研究調査活動を通して、地元へ根ざした地域密着型の研究による水俣病事件の教訓の継承と新たな学問・教育体系の確立、その成果を生かす水俣病についての総合的な研究拠点を形成する。

(2) [人材育成と情報提供] 水俣病を教訓とした環境問題に関する総合的な国際的研究交流センターとして国内外からの受け入れができる機関となる。さらに、高等教育研究機関のみならず学校教育や社会教育における水俣病に関する教育研究拠点的役割を果たす。

(3) [政策提言] 本研究の成果は、公害・環境・地域破壊と再生にかかわる地元ならびに国内外の第一線の専門家、実務家、それにより環境再生とレジリエントな地域社会モデルの構想提言がもたらされる。

(4) [国内外のネットワークと情報発信] 海外とのネットワークの形成を強化し、事件発生からの経験のモデル化を通して、開発途上国を中心とした公害発生地域へ貢献する。さらに水俣病事件の歴史的事実の資料の散逸を防止し収集、整理、保存を可能にする。

＜自己評価の実施結果及び対応状況＞

自己評価は、熊本学園大学の自己点検・自己評価の実施規定および水俣学研究センター自己点検評価委員会規程により内部評価を実施している。各年度の成果報告会として、水俣病事件研究交流集会、公開セミナーにおいて研究者が成果発表を行い、研究手法や結果、分析について相互評価、調査内容の軌道修正を行っている。また必要に応じて各プロジェクトの中間報告を行うために水俣学研究センター主催で定例研究会を実施し、各年度の達成状況の確認を行っている。

この3年間の自己評価結果は、当初の計画に沿って着実に研究が進んでおり、水俣学アーカイブ構築は当初の計画を超えて成果を公表できていると判断している。

＜外部（第三者）評価の実施結果及び対応状況＞

「水俣学研究センター」では、学外者による外部評価委員を組織し、研究プロジェクト3年目および最終年度に評価を実施することとしており、2017年度（2018年1月6日、7日）に第13回水俣病事件研究交流集会において外部評価委員を招き、本プロジェクトの研究メンバーが中間報告を行い、外部委員からの評価を受けた。外部評価委員は、環境社会学研究のトップの研究者ならびに水俣の水銀分析の第一線の研究者に委嘱した。

	氏名	所属
外部評価委員	嘉田由紀子	前びわこ成蹊スポーツ大学学長
	長谷川公一	東北大学大学院文学研究科教授
	赤木洋勝	国際水銀ラボ取締役所長

委員からは、外部評価が外部評価委員と担当者だけで実施されるのではなく、様々な研究者、水俣病に係る被害者、支援者など一般の方々が多く参加するオープンな場で行われたことは、水俣学のあり方を体現しているものと評価された。また、

HP上で公開されている水俣学アーカイブは大変充実しており、それだけでも相当大きな成果であると高く評価された。課題は、地域再生の問題にどう取り組むかが弱く、地域再生の方法論が弱いので今後の検討が必要であると指摘を受けた。

以上のように、外部有識者による評価は、本プロジェクトの方法的特色である専門の壁を越えて研究する総体的な学問姿勢と現地に密着した研究機関であることによる成果が高く評価されたものと判断している。課題として指摘された地域再生のための方法論については、連携している国内外の研究機関とも意見を交わし、今後の方法論を再検討している。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|------------------|-------------------|-------------------|
| (1) <u>水俣学</u> | (2) <u>水俣病</u> | (3) <u>公害</u> |
| (4) <u>被害救済</u> | (5) <u>地域再構築</u> | (6) <u>健康影響評価</u> |
| (7) <u>アーカイブ</u> | (8) <u>データベース</u> | |

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

＜雑誌論文＞

研究班1 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究						
N o.	著者名	論文標題	雑誌名、巻号	ページ	発行年	査読
1	<u>花田昌宣</u>	研究と実践をつなぐ新たな研究モードの創生:水俣学から熊本地震へ	Social Design Review、9	10-21	2018	
2	<u>花田昌宣</u>	インクルーシブな避難所と水俣学の経験ー地域に根ざした学と社会運動	現代思想、45(5)	96-104	2017	
3	<u>花田昌宣</u>	水俣病は終わっていない:水俣病公式確認 60年の現状と将来への課題ー熊本震災をふまえて	部落解放、736	15-23	2017	
4	<u>花田昌宣</u>	熊本地震と障害者支援:避難所の経験から	部落解放研究くまもと、72	3-73	2016	
5	<u>花田昌宣</u>	被災者支援と人権保障	ヒューマンライツ、344	2-11	2016	
*6	<u>花田昌宣</u>	水俣病 60年、今残された課題と水俣病研究の教訓	環境と公害、46(2)	40-45	2016	
7	<u>Hanada, M., Shimoji, A., Nakachi, S., Tajiri, M., Inoue, Y., Morishita, N., et al</u>	2014 Report on Research Results for Minamata Disease in First Nations Groups in Canada	水俣学研究、7	19-34	2016	
8	<u>花田昌宣</u>	障害者を受け入れたインクルーシブな避難所:熊本学園大学での取り組み	季刊福祉労働、152	125-130	2016	
*9	<u>花田昌宣</u>	公害水俣病に対する差別の現在形	ヒューマンライツ、338	2-9	2016	
*10	<u>花田昌宣</u>	水俣病の六〇年:公害の経験をどう活かすか	科学的社会主義、216	38-44	2016	
*11	<u>花田昌宣</u>	水俣病を人権と差別の課題として	部落解放、724	46-55	2016	
*12	<u>花田昌宣</u>	公式確認六〇年:なぜ水俣病が終わらないのか 差別と人権の課題として	部落解放研究くまもと、71	62-77	2016	
*13	<u>花田昌宣</u>	水俣病に関する差別の現状と課題:差別事例の調査から見えてくるもの	ヒューマンライツ、333	34-39	2015	
14	<u>花田昌宣</u>	「水俣学」をつくる	歴博、192	11-15	2015	
15	<u>下地明友</u>	不思議の場所、それは多文化間精神医学ー臨床の位相は徴候的な場所である	こころと文化、17(1)	67-70	2017	
16	<u>下地明友</u>	災害とこころのケアー熊本地震の経験からー	精神衛生、69	1-18	2017	
17	<u>田尻雅美</u>	シリーズマイノリティの声 23 放置される水俣病ー救済策によって強化される差別	ヒューマンライツ、357	22-25	2017	
18	<u>萩原修子</u>	水俣病事件と『もうひとつのこの世』	現代宗教 2018	111-132	2018	
19	<u>東 俊裕</u>	障害者権利条約と第1回日本政府報告の内容と課題:障害のある子どもに焦点を当てて	子どもの権利研究、29	129-141	2017	
20	<u>東 俊裕</u>	被災地における障害者支援	ヒューマンライツ、	10-15	2017	

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

			354			
21	東 俊裕	熊本地震と被災障害者への支援活動	福祉労働、152	1-4	2016	
22	Yorifuji, T., Kashima, S., et al	Temporal trends of infant and birth outcomes in Minamata after severe methylmercury exposure	Environ. Pollut., 231(Pt 2)	1586-1592	2017	有
23	Yorifuji, T., Tsuda, T.	Epidemiological studies of neurological signs and symptoms and blood pressure in populations near the industrial methylmercury contamination at Minamata, Japan	Arch. Environ. Occup. Health, 71(4)	231-236	2016	有
24	Yorifuji, T., Kado, Y., et al	Neurological and neurocognitive functions from intrauterine methylmercury exposure	Arch Environ. Occup. Health, 71(3)	170-177	2016	有
25	Yorifuji, T., Kashima, S.	Secondary sex ratio in regions severely exposed to methylmercury "Minamata disease"	Int. Arch. Occup. Environ. Health, 89(4)	659-665	2016	有
26	Yorifuji, T., Kato, T., et al	Intrauterine Exposure to Methylmercury and Neurocognitive Functions: Minamata Disease	Arch. Environ. Occup. Health, 70(5)	297-302	2015	有
27	頼藤貴志・入江沙織、他	水俣病における胎児期メチル水銀暴露 - 見過ごされてきた胎児期低・中濃度曝露による神経認知機能の影響	環境と公害、46(2)	52-58	2016	
28	頼藤貴志・入江沙織、他	胎児期メチル水銀曝露による神経認知機能: 水俣病	水俣学研究、7	3-17	2016	有
29	頼藤貴志・津田敏秀・原田正純	水俣病: 民主主義と正義のための挑戦	水俣学研究、6	103-138	2015	
30	除本理史	原発事故賠償と福島復興制作の5年間を振り返る: 避難者に対する住まいの保障に着目して	経営研究、66(4)	185-195	2016	
31	除本理史	公害被害地域の再生に関する一試論: 水俣「もやい直し」再考	経営研究、66(3)	31-48	2015	
32	飯嶋秀治	水俣と民族誌 - 石牟礼道子『苦海浄土 - わが水俣病』を中心に	九州人類学会報、42	3-7	2015	
33	大久保規子	環境と司法 環境団体訴訟はなぜ必要なのか - 環境民主主義の国際的潮流	世界、893	191-198	2017	
34	大久保規子	環境民主主義指標(EDI)の意義と課題	環境と公害、46(3)	38-43	2017	
35	大久保規子	PRTR 制度の国際的展開と市民参加	化学物質と環境、138	14-16	2016	
36	大久保規子	アジアにおける環境民主主義の展開	環境と公害、45(1)	36	2015	
37	尾崎寛直	横断的比較による水俣病の補償システムの検証	環境と公害、44(4)	16-18	2015	
38	磯谷明德	制度経済学: 一世紀の時を経て再生・復活 経済システムの多元性と進化の経済学へ	経済セミナー増刊	62-63	2015	
研究班2 環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究						
39	宮北隆志	大学内にインクルーシブな避難所を開設: 家族・地域を丸ごと受け入れた熊本学園大学の取り組み	労働の科学、72(3)	142-147	2017	
40	宮北隆志	事例研究: 化学工場における爆発災害管理とリスクコミュニケーション(監訳)	水俣学研究、7	87-106	2016	
41	宮北隆志	<現地報告>2016年熊本地震 - 被災者とともに	環境と公害、46	59	2016	

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

		震災と向き合った 14 号館避難所の 45 日間	(2)			
42	中地重晴	廃棄物による健康リスク	日本医師会雑誌、146(特別号2)	221-224	2017	
43	中地重晴	豊島の教訓とは何か	環境管理、53(10)	34-41	2017	
44	中地重晴	熊本地震の被災地におけるアスベストの飛散防止と廃棄物処理の課題	労働の科学、72(3)	20-25	2017	
45	中地重晴	水俣で学ぶ環境保護を取り入れた中小企業における参加型職場環境改善活動	労働の科学、71(5)	304-307	2016	
46	中地重晴	災害時のアスベスト問題 ～ 阪神淡路大震災から東日本大震災まで ～	環境技術、44(5)	242-248	2015	
47	高木 亨	(2017年5月から研究員)				
48	富安卓滋	火山噴火と大気環境－第5講 火山噴火の大気動態・環境影響－③水銀	大気環境学会誌、51(2)	20-28	2016	
研究班3 水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成						
49	井上ゆかり	水俣病多発漁村に生まれ育った第二世代の苦悩	部落解放、724	12-18	2016	

<図書>

N o.	著者名	図書名	出版社名	ページ数	発行年
研究班1 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究					
50	花田昌宣・久保田好生(編)	いま何が問われているか:水俣病の歴史と現在	くんぷる	256頁	2017
51	花田昌宣・田尻雅美(編)	水俣病問題のいま:差別禁止法制定を求める当事者の声⑨	部落解放・人権研究所	146頁	2017
*52	花田昌宣(編)	水俣学研究資料叢書IV「不知火海の漁師聞き書き」	熊本学園大学水俣学研究センター	263頁	2017
53	花田昌宣・中地重晴(編)	水俣病60年の歴史の証言と今日の課題(水俣学ブックレット15)	熊本日日新聞社	107頁	2016
54	花田昌宣	原田正純著『いのちの旅「水俣学」への軌跡』解説	岩波書店	201-222	2016
55	中地重晴・花田昌宣(編)	九州・熊本の産業遺産と水俣(水俣学ブックレット14)	熊本日日新聞社	149頁	2016
56	花田昌宣	なぜ水俣病が終わらないのかー現在の課題にふれて(衆議院調査局環境調査局『水俣病問題の概要』)	衆議院調査局	95-100	2015
57	下地明友、他訳	マッド・トラベラーズーある精神疾患の誕生と消滅(イアン・ハッキング著)	岩波書店	360頁	2017
58	下地明友、他訳	精神医学歴史事典(エドワード・ショーター著)	みすず書房	480頁	2016
59	下地明友	〈病い〉のスペクトルー精神医学と人類学の遭遇	金剛出版	368頁	2015
60	田尻雅美	胎児性・小児性水俣病の社会福祉的ケアの課題と将来への展望ー被害の多様性を踏まえた分析ー	熊本学園大学大学院社会福祉学研究科博士論文	133頁	2016
61	田尻雅美	家族と介護者(池田理知子、他編『よくわかるヘルス・コミュニケーション』)	ミネルヴァ書房	116-117	2016
62	田尻雅美	水俣病の補償・救済制度の限界ー水俣病未解決がもたらすもの(水俣学ブックレット15)	熊本日日新聞社	55-67	2016

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

63	除本理史	曖昧にされる被害補償の責任－福島と水俣の共通性(花田・久保田編『いま何が問われているか 水俣病の歴史と現在』)	くんぷる	147-163	2017
64	除本理史	未来のために学ぶ四大公害病	岩崎書店	22 頁	
65	除本理史	公害から福島を考える－地域の再生をめざして	岩波書店	224 頁	2016
66	大久保規子、 他	はじめての行政法 4 版	有斐社	298 頁	2018
67	尾関周二・保母武彦・尾崎寛直(編)	「環境を守る」とはどういうことか－環境思想入門	岩波書店	63 頁	2016
研究班2 環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究					
68	宮北隆志	ヘルスプロモーションの理念と健康格差(池田理知子、他編『よくわかるヘルスコミュニケーション』)	ミネルヴァ書房	128-129	2016
69	中地重晴	水銀条約と水俣の課題(花田・久保田編『いま何が問われているか 水俣病の歴史と現在』)	くんぷる	107-145	2017
70	森下直紀	カナダ水俣病事件の現在:世界に潜在する水俣病患者救済のために(花田・久保田編『いま何が問われているか』)	くんぷる出版	127-145	2017
71	森下直紀	千湖に生きるひとびと:水をめぐるオジブエたちの半世紀(渡部公三、他編『異貌の同時代:人類・学・の外へ』)	以文社	171-207	2017
72	森下直紀	水俣病事件史にみる公害と人権(李修京編『グローバル社会と人権問題』)	明石書店	175-180	2015
研究班3 水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成					
73	井上ゆかり	権力に被害を叫ぶことから始まる水俣病 岩本美智代解題(花田・久保田編『いま何が問われているか～水俣病の歴史と現在』)	くんぷる	205-216	2017
74	井上ゆかり	水俣病多発漁村における漁民・漁業被害の多重連環－熊本県芦北町女島での社会学ならびに医学的調査による実証研究	熊本学園大学大学院社会福祉学研究所博士論文	178 頁	2016
75	高峰 武	20 世紀の水俣病(花田・久保田編『いま何が問われているか 水俣病の歴史と現在』)	くんぷる	9-65	2017
76	高峰 武	水俣病を知っていますか	岩波ブックレット	72 頁	2016

<学会発表>

No.	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
研究班1 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究					
77	花田昌宣	研究と実践をつなぐ新たな研究モードの創生:水俣学から熊本地震へ	社会デザイン学会	東京都	2017 年 12 月
78	花田昌宣	大規模災害と社会連帯経済:東北と熊本の経験から	第7回日韓社会的企業セミナー	ソウル市	2017 年 12 月
79	花田昌宣	水俣病61年と水俣学の展開	第5回水俣学若手研究セミナー	水俣市	2017 年 9 月
80	花田昌宣	日本とカナダの水俣病問題の現状と課題	水俣病公式確認60年国際シンポジウム「カナダ先住民の水俣病と水銀汚染」	町田市 熊本市	2017 年 2 月

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

81	井上ゆかり・ 田尻雅美・ 花田昌宣・ 下地明友・ 中地重晴・ 宮北隆志	平成28年度熊本地震と避難所運営に関する健康医療支援体制について	第75回日本公衆衛生学会総会	大阪市	2016年10月
*82	<u>Hanada, M.</u>	Lessons from the history of Minamata Disease and current challenges in the international community	International conference. 'Minamata@60: Learning from Industrial Disaster toward Sustainable Society and Environment	バンコク市	2016年9月
83	花田昌宣	水俣病をいかに伝えていくか - 被害現地住民との対話をめざす『水俣学』構築の試み -	シンポジウム「公害をいかに伝えていくか - 東アジア近現代史の視点から」	横浜市	2016年3月
84	花田昌宣	水俣病差別研究の課題と方法	第11回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2016年1月
85	下地明友	医療人類学から見た多文化共生社会: The open (開かれ)とThe between (あいだ) - heteroglossia (異言語混淆) - 未来の精神医学: 小さな声は(かき消される声)は止むことがない	第37回日本社会精神医学会	京都市	2018年3月
86	下地明友	不思議な場所としての多文化間精神医学	第24回多文化間精神医学会学術大会	東京	2017年11月
87	田尻雅美	水俣病の差別	第3回差別禁止法制定をめぐる当事者の集い	神戸市	2018年1月
88	田尻雅美	分科会5 差別禁止法の実現をめざして「水俣病」	第32回人権啓発集会	神戸市	2018年1月
89	田尻雅美	終わらない水俣病	第49回食とみどり、水を守る全国集会 in 熊本	熊本市	2017年11月
*90	<u>Tajiri, M.</u>	60 years of Fetal Minamata Disease Patients	International conference. 'Minamata@60: Learning from Industrial Disaster toward Sustainable Society and Environment	バンコク市	2016年9月
91	頼藤貴志	水俣における周産期・乳児期の健康アウトカムの時間的トレンドについて	第13回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2018年1月
92	頼藤貴志	水俣病における胎児性メチル水銀曝露	第12回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2017年1月
93	頼藤貴志	被害の全体像を考える ~ メチル水銀の健康影響に関する疫学研究を踏まえて ~	水俣病事件 60年を問うシンポジウム	水俣市	2016年2月
94	頼藤貴志	最近行った疫学研究の報告	第11回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2016年1月
95	飯嶋秀治	石牟礼道子(1927-)	課題研究懇談会「応答の人類学」第33回研究会	能美市	2018年1月
96	飯嶋秀治	海外での水俣表象	第12回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2017年1月
97	飯嶋秀治	漁村の文脈 - 発達課題に臨む(シンポジウム「環境災害と宗教学」)	西日本宗教学会第6回学術大会	福岡市	2016年3月
98	飯嶋秀治	生人からGS(グリーンスポーツ)へ	第11回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2016年1月
99	尾崎寛直	ヒロシマ・ナガサキ、ミナマタ、フクシマ 繰り返される問題構造と解決の糸口	新潟水俣病シンポジウム	新潟市	2016年10月

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

研究班2 環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究					
*100	中地重晴	水俣市民の食品からの水銀摂取の現状について	第12回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2017年1月
*101	中地重晴	水銀条約の批准に向けた水銀新法の成立と日本の課題	第11回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2016年1月
*102	中地重晴・宮北隆志	水俣市における土壌中の高濃度水銀汚染について	第74回日本公衆衛生学会総会	大阪市	2015年11月
*103	守弘仁志	水俣病公式確認60年アンケート調査結果から	第13回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2018年1月
104	藤本延啓	豊島問題の社会史 - 不法投棄事件は人々と社会に何をもたらしたか	日本平和学会2017年度秋季研究集会	高松市	2017年11月
105	藤本延啓	被災・復旧・復興の個別性と全体性 - 西原村における熊本地震災害支援から	第43回山口地域社会学会総会研究集会	山口市	2017年7月
106	藤本延啓	不法投棄事案における「問題」「被害」「解決」- 豊島住民のライフヒストリーから	第73回西日本社会学会	山口市	2015年5月
107	森下直紀	カナダ・オジブエ先住民 水銀被害の歴史と現在 - カナダの水俣病 -	和光大学地域連携研究センター主催 公開シンポジウム	町田市	2017年2月
108	森下直紀	カナダ水俣病事件の現状について	第13回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2018年1月
研究班3 水俣学アーカイブス構築の試み					
109	井上ゆかり	地域の縮図となる避難所で何が問われたか - 『熊本学園モデル』とよばれた45日間	第8回日本世代間交流学会	熊本市	2017年10月
*110	井上ゆかり・花田昌宣・田尻雅美	『公害』水俣病の記憶を伝える - 水俣学の基底	うつくしま福島未来支援センター研究会	福島市	2017年3月
*111	井上ゆかり・花田昌宣・田尻雅美	『震災』熊本地震後の資料復旧と『公害』水俣病の記憶を伝える意味	フクシマの復興の歩みを学術的視点から海外に発信するシンポジウム	福島市	2017年3月
*112	井上ゆかり・花田昌宣・守弘仁志	今なお解決をみない水俣病事件を次世代に『伝える』ネットワーク形成	社会情報学会九州・沖縄支部2016年度研究会	福岡市	2017年2月
113	高峰 武	ピアレビュー「水俣病を知っていますか」	第11回水俣病学術資料調査研究推進室セミナー	熊本市	2016年10月

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

<既に実施しているもの>

I. 水俣学研究センター刊行物 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/books/>

1. 水俣学ブックレット

No.14 『九州・熊本の産業遺産と水俣』 中地重晴・花田昌宣編、2016年3月

No.15 『水俣病60年の歴史の証言と今日の課題』 花田昌宣・中地重晴編、2016年6月

2. 研究紀要

水俣学研究第7号 水俣学研究編集委員会編集、2016年9月

3. 資料叢書

資料叢書IV 『不知火海の漁師聞き書き』 花田昌宣編、2017年3月

4. その他

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

地域健康影響評価 タイ・チャチェンサオ県、パノムサーラカム郡、タンボン Khao Hinsorn における石炭火力発電所の事例 監訳：宮北隆志、翻訳：松田加洋子、協力：吉村千恵、2015年6月

II. 水俣学講義 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar01/>

- 第14期 水俣学講義 2015年9月24日～2016年1月24日
- 第15期 水俣学講義 2016年9月29日～2017年1月19日
- 第16期 水俣学講義 2017年9月21日～2018年1月25日

III. 公開講座 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar02/>

- 第12期「九州・熊本の産業遺産と水俣」 2015年10月6日～11月3日、全5回
- 第13期「熊本地震と水俣－地震への備えを考える－」 2016年9月27日～10月25日、全5回
- 第14期「払っているだけの介護保険？はじめの一步」 2017年9月26日～10月24日、全5回

IV. 公開セミナー・シンポジウム

1. 第23回公開セミナー「第6回水俣病を「伝える」セミナー」 2016年3月2日
http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar03_7668.html
2. 水俣病公式確認 60年国際シンポジウム
「カナダ先住民の水俣病と水銀汚染」 2017年2月18日～22日、熊本市、水俣市、東京都町田市
<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar03/>
3. 若手研究セミナー <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar08/>
第4回 2015年9月4日（金）～6日（日）、全3日間
第5回 2017年9月8日（金）～10日（日）、全3日間
4. 定例研究会 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar09/>
第26回～第35回 2015年4月22日～2017年10月7日、全10回
5. 水俣病事件研究交流集会
<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar04/schedule/>
〈2015年度〉第11回 2016年1月9日～1月10日、全2日間
〈2016年度〉第12回 2017年1月7日～1月8日、全2日間
〈2017年度〉第13回 2018年1月6日～1月7日、全2日間

V. 国際シンポジウム・会議

- http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/active03_8044.html
- 1. “Minamata@60: Learning from Industrial Disaster towards Sustainable Society and Environment”、2016年9月10日、会場：タイ・チュラロンコン大学 Chaloem Rajakumari 60 Building 7F ホール
- 2. セミナー “Myanmar’s SEZs: Opportunities or Threats to Local Communities”
主催：EARTH RIGHTS INTERNATIONAL、2016年2月23日、ミャンマー・ヤンゴン
- 3. フォーラム “The Second Forum on Myths and Facts: Gold Mining in Loei Province”
主催：EARTH、2017年6月29日、タイ・バンコク

VI. 海外研究者の受け入れ

- 〈2015年度〉
韓国緑の忠南、台湾国立中正大学、茗溪学園中学、日韓 PAOT ワークショップ
- 〈2016年度〉
シリ ポーン氏（メー ファー ルアン大学、タイ）
- 〈2017年度〉
チャ スンギ氏（朝鮮大学）、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、アメリカ・フランスからの取材

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/international/international05/>

VII. その他

第3期水俣学研究プロジェクト・キックオフ研究会、2016年8月4日

第6回水俣病臨床研究会 2017年1月8日

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「水俣病の経験を将来に活かした地域構想と国際的情報発信のための水俣学研究拠点の構築」中間報告 2018年1月7日

〈2015年度〉

年間を通じての JICA 研修、大学の研究者による聞き取りや資料閲覧、水俣病に関する研修の受け入れ（水俣環境アカデミーキック・オフシンポジウム水俣エクスカージョン、日本コミュニケーション学会九州支部、甲南女子高校、新潟大学、熊本日新聞社新任職員水俣病概要研修、大阪人権研究所水俣調査受入、済々黌 SGH 水俣研修受入、私学教育研修会一斉研修中学部会、畑育郎水俣案内、環境省環境調査研修所、東京経済大学）などを大学・水俣で受け入れた。

〈2016年度〉

年間を通じての JICA 研修、大学の研究者による聞き取りや資料閲覧（法政大学、佐賀大学、九州大学、大分大学、大阪市立大学、鳥取大学、京家政学院大学、東京医学芸大学、北九州大、甲南女子高校、新潟大学、岡山大学、京都大学、北九州エコツアー神奈川大学、国際基督教大学）、水俣病問題に関する研修、水俣高校スーパーグローバル高校研修、人吉中原小学校、など、講義、案内などを受け入れた。

〈2017年度〉

年間を通じての JICA 研修、大学の研究者による聞き取りや資料閲覧（福岡女子大学、法学研究者、神戸学院大学、水平社博物館長、中央大学、保険医協会、日本消費者連盟関西グループ、新潟大学、アスベスト患者家族の会、海外環境協力センター、愛媛大学社会共創学部、慶応義塾大学環境情報学部、日本 NUS）などの研修を大学、水俣で受け入れた。

<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/international/international04/>

〈これから実施する予定のもの〉

1. 国際フォーラム

第3回環境被害に関する国際フォーラム—水俣病・失敗の教訓を将来に活かす—、2019年2月22日～23日（熊本市と水俣市で開催）

2. 水俣学講義

第17期 2018年9月20日～2019年1月24日、全15回

3. 公開講座

第15期 2018年10月2日～10月30日、全5回

4. 水俣病事件研究交流集会

第14回 2019年1月12日～1月13日

5. チッソ労働運動史研究会

第37回 7月21日、2月に1回開催予定

6. 天草環境会議

第35回 2018年7月7日～7月8日、全2日間

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

1. チッソ労働運動史研究会

<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar07/>

〈2015年度〉第27回～29回 2015年8月19日～2016年3月31日

〈2016年度〉第30回～32回 2016年6月18日～2016年12月28日

〈2017年度〉第33回～36回 2017年5月28日～2018年3月31日

2. 水俣・芦北地域戦略プラットフォーム

<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar06/>

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

<p>〈2015年度〉第39回～40回 2015年6月29日～2016年3月28日</p> <p>〈2016年度〉第41回 2016年12月23日</p> <p>3.天草環境会議 http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar11/</p> <p>〈2015年度〉第32回 2015年7月11日～11日、全2日間</p> <p>〈2016年度〉第33回 2016年7月9日～10日、全2日間</p> <p>〈2017年度〉第34回 2017年7月8日～9日、全2日間</p> <p>4.水俣病事件資料集編纂委員会</p> <p>〈2015年度〉第2回～12回 2015年5月20日～2016年3月29日</p> <p>〈2016年度〉第13回～21回 2016年5月19日～2017年3月27日</p> <p>〈2017年度〉第22回～30回 2017年4月26日～2018年3月12日</p> <p>5.企業（schoo）との連携によるインターネット授業</p> <p>2015年度コミュニケーション型動画学習サービス「現代に生きる水俣学」</p> <p>2015年7月6日「終わりなき水俣病の60年」花田昌宣</p> <p>2015年7月13日「失敗から得た教訓」宮北隆志</p> <p>2015年7月20日「世界に広がる水銀汚染と水銀条約」中地重晴</p>
--

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<p><「選定時」に付された留意事項></p> <p>該当なし</p> <p><「選定時」に付された留意事項への対応></p>

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他(科研費)	
平成27年度	施設	0						【科学研究費助成事業】水俣病被害とその影響をふまえた水俣地域市民社会の再生に関する総合的研究」花田昌宣、「水俣学研究文献データベース」花田昌宣、「タイ東部臨海地域における工業化・地域社会の変容と健康の社会的決定要因に関する研究」宮北隆志、「不法投棄に関する社会史研究—豊島地域社会に対するマイクロマクロリンク的視角から」藤本延啓、「生の視点からとらえた胎児性水俣病当事者の社会福祉的ニーズの表出と実現に関する研究」田尻雅美、「水俣病多発漁村住民の水銀暴露と健康障害および補償給付の連環の実証的研究」井上ゆかり
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	32,089	13,097	5,892			13,100	
平成28年度	施設	0						【科学研究費助成事業】水俣病被害とその影響をふまえた水俣地域市民社会の再生に関する総合的研究」花田昌宣、「タイ・ミャンマーにおけるクロスボーダーな工業化・人権侵害と域外責務・環境民主主義」宮北隆志、「不法投棄に関する社会史研究—豊島地域社会に対するマイクロマクロリンク的視角から」藤本延啓、「生の視点からとらえた胎児性水俣病当事者の社会福祉的ニーズの表出と実現に関する研究」田尻雅美、「水俣病多発漁村住民の水銀暴露と健康障害および補償給付の連環の実証的研究」井上ゆかり、「災害復興段階にあわせた生活再建過程のモデル化に関する学術的研究」高木亨
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	32,578	14,862	6,216			11,500	
平成29年度	施設	0						【科学研究費助成事業】水俣病被害とその影響をふまえた水俣地域市民社会の再生に関する総合的研究」花田昌宣、「水俣学研究文献データベース」花田昌宣、「大規模地震下緊急時支援とインクルーシブな避難所の設置・運営・収束の経験と意義」花田昌宣、「タイ・ミャンマーにおけるクロスボーダーな工業化・人権侵害と域外責務・環境民主主義」宮北隆志、「生の視点からとらえた胎児性水俣病当事者の社会福祉的ニーズの表出と実現に関する研究」田尻雅美、「水俣病多発漁村住民の水銀暴露と健康障害および補償給付の連環の実証的研究」井上ゆかり、「災害復興段階にあわせた生活再建過程のモデル化に関する学術的研究」高木亨
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	36,455	12,155	8,000			16,300	
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	101,122	40,114	20,108	0	0	40,900	
総計	101,122	40,114	20,108	0	0	0	40,900	

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の種類	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
事務局事務室	H17年度	33.20					
文献資料室	H17年度	33.20					
データベース室	H28年度	33.20					
資料整理作業室	H17年度	40.00					
書庫	H17年度	40.00					
水俣学現地研究センター	H17年度	310.51			24,305		

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
				h			
				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)							
複合機	H27	Canon C2218F-V (IR-ADVC2218)	1	8/day	h	448	224 私学助成
プリンタ	H28	Canon Satera LBP 9900Ci	1	8/day	h		295 科研費
コピー機	H29	RICOH MP5055 SP	1	8/day	h		585 科研費
書架	H29	6F75FR Z269	7	8/day	h		394 科研費
(情報処理関係設備)							
パソコン	H29	HP Slimline 270-p014jp DT PC JPN2	1	8/day	h		100 科研費
パソコン	H29	CF-S26 HDCVS パナソニックLet's note	1	8/day	h		182 科研費
パソコン	H29	HP Slimline 270-p014jp Y0000AA-AAW	1	8/day	h		90 科研費
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成	27	年度	積算内訳		
小科目	支出額	主な用途	金額	主な内容		
教育研究経費支出						
消耗品費	1,159	事務用品		ファイル、トナーカートリッジ、CD、DVD-RW等文具		
光熱水費	593	電気・水道代		現地研究センター電気、水道		
通信運搬費	793	郵送料・回線料		切手、宅配料金、インターネット接続費		
印刷製本費	3,360	印刷費		研究紀要、ブックレット、通信、チラシ等印刷		
旅費交通費	2,930	出張費		研究員国内外調査・研究、招聘旅費		
報酬・委託料	2,773	委託費・謝礼		分析料、講師謝礼		
(賃借料)	1,896	現地センター賃借料		現地研究センター賃借料		
(消耗図書)	23	新聞、雑誌		新聞、雑誌		
(教具費)	24	電子機器		外付けハードディスク		
計	13,551					
アルバイト関係支出						
人件費支出 (兼務職員)	3,496	アルバイト 臨時職員	2,290 1,206	時給 790円、年間時間数 1,699時間 実人数 1人		
教育研究経費支出 計	3,496					
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)						
教育研究用機器備品	448	機器備品		複合機		
図書	201					
計	649					
研究スタッフ関係支出						
リサーチ・アシスタント	284			学内1人		
ポスト・ドクター						
研究支援推進経費						
計	284			学内1人		

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

(千円)

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	1,325	事務用品	ファイル、トナーカートリッジ、CD、DVD-RW等文具
光熱水費	592	電気・水道代	現地研究センター電気、水道
通信運搬費	819	郵送料・回線料	切手、宅配料金、インターネット接続費
印刷製本費	4,526	印刷費	紀要、叢書、ブックレット、通信等印刷
旅費交通費	3,179	出張費	研究員国内外調査・研究、招聘旅費
報酬・委託料	2,705	委託費・謝礼	分析料、講師謝礼
(賃借料)	1,829	現地センター賃借料	現地研究センター賃借料
(消耗図書)	14	新聞、雑誌	新聞、雑誌
(教具費)	37	教具	デジタル台計り、スチール台車
計	15,026		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	4,094	アルバイト 臨時職員	2,272 1,822
教育研究経費支出 計	4,094		時給 790円、年間時間数 2,876時間 実人数 1人
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品 図 書	168		
計	168		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 計	585		学内1人

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	1,268	事務用品	ファイル、トナーカートリッジ、CD、DVD-RW等文具
光熱水費	651	電気・水道代	現地研究センター電気、水道
通信運搬費	1,092	郵送料・回線料	切手、宅配料金、インターネット接続費
印刷製本費	2,461	印刷費	通信、チラシ、ポスター等印刷
旅費交通費	2,696	出張費	研究員国内外調査・研究、招聘旅費
報酬・委託料	4,819	委託費・謝礼	講師謝礼、分析料
(賃借料)	1,816	現地センター賃借料	現地研究センター賃借料
(消耗図書)	10	新聞、雑誌	新聞、雑誌
(教具費)	27	教具	デジタル台計り、スチール台車
計	14,840		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	3,019	アルバイト 臨時職員	1,756 1,263
教育研究経費支出 計	3,019		時給 790円、年間時間数 2,223時間 実人数 1人
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品 図 書	459		
計	459		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 計	744		学内1人